かいゆうだより
2020. 8. 15
No.62
発行：社会福祉法人かいゆう　国立市青柳 1-34-3　☎042-595-8033　http://www.kaiyu.or.jp/

コロナ給付金と自己決定権

瀧沢元太さんの作品

私が活動している夢ファーム Jikka に相談が寄せられた。Ａさん、30 代女性。幼い頃から親から虐待を受けてきて、大人になっても対人関係がうまくできなかったり働く自信がなかったりして引きこもりに近い暮らしをしている。家を出たいが勇気がない。でも少しずつ元気になり、そろそろ動きだしたいという相談を受けてきた方だ。こういう方は少なくない。最近ようやくＤＶや虐待、性暴力等の被害者の存在が社会問題化され、目を向けられるようになってきたが、児童虐待防止法もＤＶ防止法もできてまだ 20 年しかたっていないため、20 年前に子どもだった人たちは「教育・しつけ」という名の虐待を受けて育ち、そのためのＰＴＳＤ心的外傷後ストレスしょうがいに悩み、心身の健康を失い、困難な生活を強いられている人が多い。目には見えないため、理解されにくい。怠けているとかやる気がない等とみられ、二次被害を受け、更に復活が困難になったりする。

冒頭のＡさんはコロナ定額給付金が出ることがとてもうれしく、ずっと親に食べさせてもらっていることを引け目に思ってきたが、これだけは自分が自由に使えるお金だと思って楽しみにしていた。しかし両親は「お前にはお金がかかっている。だから給付金はお前のカウンセリング代にあてるから、お前には渡せない。」と言ったという。親から見れば食べさせているという思いになるのだろうが、しかし随分一方的なのではないか。

問題は、この給付金の振込先が世帯主になっていることだ。ＤＶ被害者も、避難中で住所を秘匿している人は、自分も子どももその給付金は世帯主の加害者に払われてしまい、受けとれなくなる。私達女性支援団体が総務省に、この実態を訴え掛け合い、本人が受け取れるようになったが、そうしなければもらえなかった。またＡさんのように、家を出られない被害者もいて、その人たちは、やはり加害者からはもらえない。

せっかく一人ひとりに出された給付金が、一人ひとりに届かないのは、間接的自己決定権の侵害なのではないか。さて皆さんはこの給付金、どのように使われましたか？（理事長　遠藤良子）

相談支援エプシロン

Tel 042-505-7021　Fax 042-505-7669

木彫りと宇宙線

時々週末に、中央線より北側の国分寺方面を散歩する。住宅地内に国立市では一橋大学か城山以外では見ることのないような大きな樹木があり、雑木林のような一画も所々に残されているエリアだ。
大木を見上げると、その存在感に圧倒され、余計な言葉が消えていく。道の脇に鬱蒼とした緑のトンネルを見ると誘い込まれるような気持ちになるが、保全地区という表示があったような気もして、立ち止まらずに通り過ぎる。幼い頃、夏ごとに訪れた祖父母の家の裏山を思い出す。樹木の生い茂った山道を抜けると砂鉄の取れる一帯があり、その先に海があった。

でも、あの頃からわたしがいちばん好きなのは、大きな自然を感じることではなく、都会の中に残された小さな自然に出会うこと。コンクリートの継ぎ目から生えてくる草、ブロック塀に咲く花。
そんなわたしの感覚にものすごくフィットする彫刻作品を見つけた。作者は、1969年生まれの須田悦弘さん。草花の繊細で精巧な木彫り作品が、壁や床などの思いもかけない場所に置かれている。

「テッセン」須田悦弘 2012年

あまりにそれらの作品が魅力的だったので、自分でもやってみようと、ホームセンターで朴（ほお）の木の角材を買い、まずは葉っぱを一枚彫ってみることにした。自分の住まいの敷地角にある植込みの、名まえを知らない草木から「ちょっと失礼」と葉っぱをいただく。一枚の薄い葉っぱと思ったものは想像以上に立体的で、角材は厚み3㎝を要した。ケガをしないことを目標に、切り出しナイフと彫刻刀と紙やすりで、二週間ぐらいかけてなんとか形を作り上げて、最後にアクリル絵の具で薄く着色した。なかなか楽しい。

わたしは高校3年生のとき、不登校や家出、自傷行為などがきっかけで精神科病院に入院になり、そのまま3年半入院した経験がある。その途中で「楽しむために生き生きと自発的に何かを行う」ことが自分から失われ、その後遺症がずーっと自分についてまわっていた。仕事や用事、友人との旅行はできても、日常生活の中で、「食べる・寝る」とそのバリエーション以外のことをやろうとする気持ちが自分の内側から湧かない。そのことが悲しいのだけれど、長年どうしようもできなかった。

でも50歳を過ぎ、在宅での緩和ケアを選んだ父を毎週訪ねたり、葬儀を終えたりしている内に、ようやくこの数年、休日に「楽しむために自発的に」外出することができるようになり、そういう生活に慣れてきた。そして、出掛ける用事が少なくなったこのところの数ヶ月の間に、今度は家での時間を組み立てることに馴染み、ついに木彫りまで楽しむことができた。

職務上名乗っていますが、計画相談の「計画」なんて、ホント笑止。「われわれの上には日々、宇宙線のように偶発事が降り注いでいる」（白川）

居宅介護等事業・訪問介護事業 くじらハウス
短期入所 おにぎり

Tel 042-505-7034
Fax 042-505-7035

平均歩数

最近携帯の歩数計を逐一チェックすることがマイブームになっています。週平均が10,000歩を超えていくことを目標として日々意識して歩いています。

ある日一日の支援で、それなりに歩いたなと自分で感じ、歩数計を見てみると30,000歩を超えている日がありました。その週は他の日も支援でそれなりに歩いていて、週平均も、いつも以上に歩いてるであろうと思っていたのですが、見てみるといつもと変わらず10,000歩を少し超える程度でした。

疑問に思い日別で見てみると、休みの日の歩数が700歩しか歩いていなく、逆に休みの日は堕落した生活をしていることが露わになったのでした...
（中川）

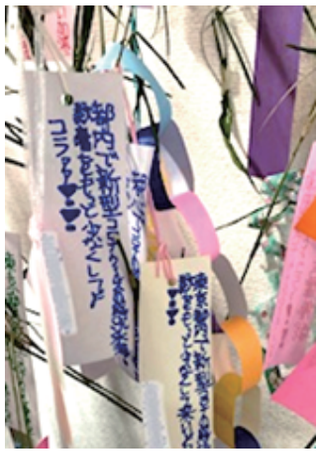
誰もが集えるみんなの居場所（10：30～18：30 日祝休み）
日中一時支援事業（15：30～土日祝休み）

たまりば宙（そら）Tel/Fax 042-843-0443

細々つながって

7 月になり、長々閉めていた（3/28 ～ 6/30）「たまりば宙」は､1 日から再オープンしました（リニューアルできれば良かったけど）。3 ヶ月、「たまりば」は閉じていましたが、隣のくじら工房の昼食作りのため、朝からシャッターは開いていたし、日中一時支援事業は継続していたので、4 月、5 月は時々、提供品も頂きました。次第に閉所をご理解頂けるようになりましたが、通りすがりに、声をかけてくださる方も多かったです。

日野から有機野菜を持ってきてくれていた作業所さんは、宙が閉まるのであればと、お休みになりました。スタッフは無農薬だから楽しみにしていたのですが。



クッキーを持ってきてくれている府中の作業所さんは、納入先が閉まっているのでありがたいと続けて持ってきてくれて、スタッフの自宅でのおいしいおやつになりました。

熊本の五穀米は、いつも食べているからと、グループホームに引き続き買いに来てもらいました。

「閉めている」といっても、細々外とつながっていて嬉しいことでした。

再オープンしてまだ数日ですが、このご時世、いろいろの対策も、ご理解頂きながら、「行くところがまたできて嬉しい！」と、おいで頂けて、私達も嬉しいです。

（松永）

今日の一品

グループホームの晩ごはん

どさんこ汁

季節のとうもろこしを使って

材料

煮干し	10 本くらい
水	700 ～ 800 ㎖
豚肉	100g
玉ねぎ	1/2 個
人参	1/2 本
じゃが芋	中 1 個
もやし	1/2 袋
とうもろこし	1 ～ 2 本
味噌	大さじ 3 ぐらい
バター	お好みで大さじ 1
にんにく	ひとかけ

作り方

①出汁は煮干しでとっておく。
②とうもろこしは包丁で削って粒にしておく。
③野菜と豚肉をひと口大に切る。
④豚肉、玉ねぎ、人参、とうもろこしをサラダオイルで炒める。
⑤④に出汁を入れ、煮立ってきたら、じゃが芋、もやしを入れる
⑥味噌（とうもろこしが甘いので、辛めの味噌が合う）を溶き、仕上げににんにくのすりおろしやバターをお好みで加える。

どさんこ汁・麻婆ナス・まぐろの山かけ

味噌ラーメンをお汁にしたイメージです。
とうもろこしが甘くて美味しいです。
たっぷり使ってください。

献立メモ

ミラハウスの夕食。
たっぷりの野菜と、しっかりタンパク質、夏バテ対策のビタミンB1 を摂れる、バランスのよい献立になっています。ここに追加するなら、海藻のミネラルと、果物のビタミンを補給できるフルーツ寒天などがよいでしょう。

レシピ作成：稲川恵子　監修：佐藤公子

ミラハウス　はるかに凌ぐ

新緑のみどりが濃くなってきたころ、ミラハウスに新しいテーブルが来ました。前回のテーブルは、やんごとなき事情のため、処分いたしました。処分時に丹羽ヤスコさんが「テーブルの傷は、ここにいた証。髪の毛の乱れは心の乱れ。」と去り際にぼそっと言われていたのが目に浮かんでは消えません。

今回のテーブルは、前回のをはるかに凌ぐものが来ました。新しいテーブルの詳細を少し紹介します。感触は「加工物で一番いい硬さ」。色味は「発色が良く目に良い色」。形は「サイズ感よくスッキリ過ぎず、大き過ぎず」なテーブルになっています。

みんな手持ち無沙汰な時などは、木目の数を数えたり、テーブルの中心を見て、どこまで周辺視野を広げられるかをやってみたり、側面に手の親指の第一関節をつけ、ストレッチをしたりとフル活用され、テーブル冥利に尽きていることでしょう。（原）

来歩ハウス　目玉焼きの話

今年の４月より来歩ハウスでお世話になっています大坪明日香です。最近家にいる時間が増え、友達とリモート飲み会をしました。そこで出てきた話題は目玉焼きの話。なぜなら目玉焼きが大好きだからです！

皆さん目玉焼きには何をかけますか？…私は塩コショウです。同じ質問に友達は醤油。私の弟は目玉焼き苦手だから食べない。との回答でした。目玉焼きを食べない弟だったとは…と軽くショックを受けながらも、慣れ親しんだ物や育ちに限らず各々の回答が出てきて面白かったです。なんとも平和な会話…機会があれば、またやろうかなと思います。（大坪）

メゾン・ド・歩人　立ち返る場所

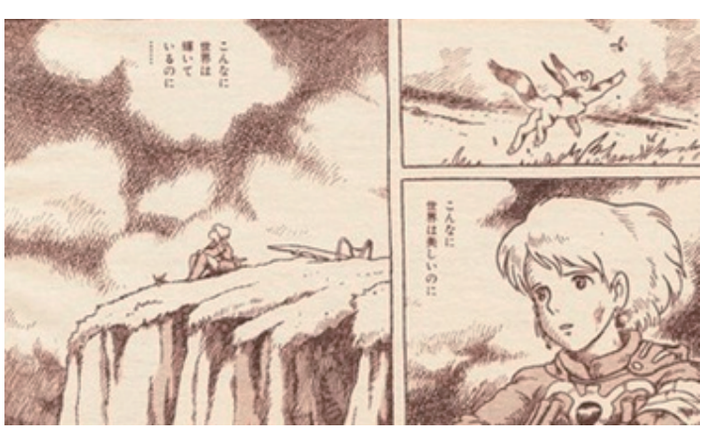
皆さんこんにちは。今年、日本はオリンピックイヤーになるはずが、目に見えない「コロナウイルス」が世界を包んでしまいました。平和だった生活が一転し、新しい常識がやってきました。幸いなのかどうなのか、私たちの仕事は、ほぼ変わらず日々忙しく働いております。ただ、この原稿を書いている現在（６月中旬）も、かいゆうからの感染者は１人も出ていないということは本当に幸いに思います。

ちょうど昨年の今頃、福岡に行き、フラメンコを踊り、熊本へ足を延ばして熊本地震の被害を目の当たりにし、過去の震災等を振り返り、原稿を書いたこと、思い出します。昨年の原稿には書かなかったことを書いてみようと思います。

私には、自身の生活（世界）が変わる時、いつも思い出す一場面があります。宮崎駿原作『風の谷のナウシカ』の一場面です。ナウシカが王蟲（おうむ）の群れを待つシーン、王蟲は死の瘴気（しょうき）の中を進んでくるわけです。ナウシカ自身も、その瘴気に巻き込まれて「死ぬ」覚悟…なのですが、ナウシカの「こんなに世界は美しいのに」「こんなに世界は輝いているのに」この台詞。変わらない世界の尊さがじんわり身に染みてきます。

この漫画に出会ったのが、いつだったか記憶…忘れましたが、ふとすると、いつもここに立ち返ります。何か難しくしてしまったり、逆にすごく簡単にしてしまったり、そんなときも、ここに立ち返ります。今回も、もれなく立ち返りました。だからどうこうという訳ではなく、世界は美しい。その美しい世界にいる私たちも実は美しい。二つとないかけがえのない存在。ちょっと元気になれるわけです。

そして私たちは、その美しい世界から見たら、本当にちっぽけな存在でもある。そんな清々しい気持ちにもなれるわけです。自身の生き方や生活常識までガラッと変えた今回の出来事は、またまた自身の立ち返りの材料になりました。改めて「死」というものを考えるきっかけにもなりました。しかしながら、来年は何事もなく平和な年になれば良いなぁと願うばかりです。（小野）



はじめの一歩ハウス　生きるとは

私は、このコロナ自粛期間の間、映画鑑賞をすることが多かったのですが、その中でも特に印象に残った映画が『閉鎖病棟－それぞれの朝－』（2019）という作品です。これは長野県にある精神病院に入院している患者さんの、これまでに歩んできた人生や病院内での出来事を通し「生きていく」とは何かを考えさせられる映画です。（原作は帚木蓬生の小説。1994）

一言で精神病院と言っても、患者さんの症状は様々で、統合失調症や、親からの虐待による心身の傷・知的しょうがいや、てんかんなど、それぞれが別々の病気やしょうがいを抱えています。

その中で、患者さんに、ある程度共通して言えることがあります。それは「本人のことをちゃんと理解してくれる人が少ない」ということです。精神しょうがいは外見ではその症状が分かりずらいこともあり、周りの人からの理解が進まないこともあります。実際に日本の精神病院では数十年単位、人によっては 50 年入院をされている方もいます。これは社会的入院と呼ばれ、他に受け皿が無く、そこに留まらざるを得ない状態なのです。

精神医療では、「完治より寛解」という言葉をよく使うそうです。これは状態が落ちついていることを指し、それと同時に再発する可能性もあるということです。つまり場合によってはその病気と一生関わっていくこともあるということです。

現在、コロナウイルスが流行し、それぞれが自身の身を守ることにだけ目がいき、他人への思いやりが無くなっているのでは？と感じる場面がよくあります。そんな世の中でも自分に向き合い、生きている人達もいると思うと、私自身も周りの人への感謝の心を忘れないで精一杯生きよう。そう思える映画でした。ぜひ見てみて下さい！（一之木）

おうち時間の過ごし方 Stay home

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、東京都では4/7に緊急事態宣言が発令され、宣言が解除される5/25までの約2か月、外出自粛を余儀なくされました。

とれいる　仮装現実の話

先日、「レディープレイヤー 1」という映画を見ました。80 年代、90 年代の音楽や文化が、これでもかと盛り込まれた作品であります。ＶＲ仮想現実の話なのですが、近い将来もっと身近かになるのは間違いなく、自分ならプロドライバーやパイロットの擬似体験がしたいと思いました。

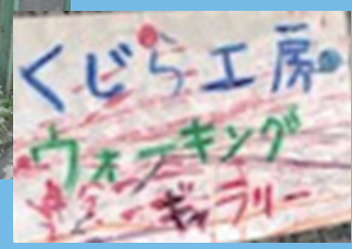
もし、自分が思い描いたことを体験できるなら、皆さんは何を想像しますか！？

写真は、別の映画ですが私が大好きな「スタンド・バイ・ミー」のひとコマ。仮想現実なら昔に戻れるかも！？（佐々木）

すうぇる　広がる友だちの輪

世界では新型肺炎が流行しています。そんな中、私自身で流行していることは、リモート呑み会と料理です。リモート呑み会では専門学校時代の友人と始めたリモート呑み会も、今や友人の友人と輪が広がっていきました。料理は様々な国の料理を作ってます。例えばタイ料理のカオマンガイ、中華料理では餃子、イタリア料理は手の込んだパスタ料理を作ってリモート呑み会のお酒のあてにしています。
コロナが落ち着いたらリモート呑み会で知り合った友人達全員に料理を振る舞えるようこれからも腕を磨いていきたいと思います。（松原）

くじら工房
ギャラリー展



**「くじら工房ギャラリー展」は、 新型コロナウイルス感染防止のため、
当初予定していた隣のたまりば宙ではなく、JR谷保駅のフェンスに作品を掲示し、
ウォーキングギャラリーという形態にて開催いたしました。
最初にイメージしていた形ではなくなったものの、
多くの方に絵を見て頂けることとなりました。
ご協力下さった JR の方には感謝しています。**

水上貴美

坂本由紀子

柿崎智子

村上昌平

生活介護事業所
くじら工房
Tel/Fax 042-843-3450

浮浪雲から

5 月に入職した鮫島龍雲（さめじまりょううん）です。自己紹介した後には 8 割の確率で、住職やお寺関係ですか？と聞かれますが、ただの内装業の倅です。名前の由来もよくきかれます。5 月 12 日に亡くなった漫画家の秋山ジョージさん作『浮浪雲』の主人公から頂いているようです。興味が無いと思いますが、調べてみて下さい！

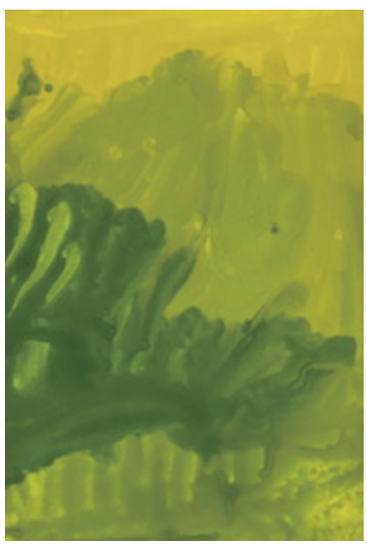
くじら工房で働き始めて約 3 か月経ちますが、利用者さんとの信頼関係も業務も、まだまだです。焦らずゆっくりと利用者さんとの信頼関係を構築してノーマルな生活や、くじら工房での活動が送れるよう従事したいと思っております。（鮫島）

鮫島さん 自画像

岩崎岳

松田千草

白石圭佑



高橋マイケル

波頭修

角南孝典

浅賀あゆみ

斉藤拓哉

4/25 ～ 5/1 の 1 週間、谷保駅北口の線路沿いのフェンスに、くじら工房の利用者のみんなの作品を飾らせて頂きました！

かいゆう人語

私らしく

知的しょうがいしゃの入所施設で看護師として働く母と、無認可作業所から社会福祉法人を立ち上げ、しょうがい福祉に従事した父。そんな両親のもとで、児童養護施設への就職を目指していた私は、夜間の専門学校で保育士の資格を取ったものの、就職活動をせずに卒業（笑）。その後、就職した通所授産施設で働いている時に“かいゆう”の前身『くじら雲』に出会い、一歩ハウスで宿直をしたのをきっかけに、長男を出産後、くじら雲へ転職しました。

そして、くじら雲で働きながら、福祉のプロフェッショナルを目指そうと『社会福祉士』という国家資格を取得しました。父は、『決められたことだけやればいいと思うなら、福祉の仕事はするな』と、想いが先走りがちな私に、相談援助の専門職としての広い視野と、抱え込まないバランス感覚、ネットワークを授けてくれました。

先日、まだ小さな子どもを育てる若者から、失業給付がもらえないという相談を受けたのですが、よくよく話を聞けば、雇用契約ではなく、業務委託契約だったとのこと。そして、彼が就職活動の過程で出会う、雇用の課題。雇用契約書や給与明細の見方、雇用保険の意味など、誰が教えてくれるのだろうか。。。多様化し（過ぎ）た働き方の傍らで、非正規化⇒ワーキングプア（働く貧困層）。これは自己責任なのだろうか…。なんだか、とても考えさせられてしまいました。（そして、今のコロナ禍での雇用の問題は、より深刻さを増しているように感じます。）

そんな最中、ずっと雇われてきた私は、この７月からフリーランスという働き方にチャレンジします。自由業は、まさしく全てが自己責任。自分でも、ちょっと意外な展開なのですが、これからどんな楽しいことをしようか、どんな出会いがあるのかとワクワクしています。

経験すること、学ぶこと。それは、しょうがいがあってもなくても平等に保障される社会であってほしいと願いながら、私らしく働きつづけていきます。
（bumPo 池田希咲）

放課後等デイサービス
くじらっこ
Tel/Fax 042-505-4661

豪雨災害に思う

九州やその周辺の西日本で豪雨の災害がありましたが、昨年の台風で、私も車椅子を使用している父親の避難で、必要な物の準備や避難場所など、その場ではわからずに混乱し、日頃の準備や確認などが改めて重要なことに気づかされました。また特別な配慮を必要とする方の避難の難しさを感じました。

くじらっこでも年２回ほど、避難訓練等を実施していますが、果たして、この方法、この避難場所でいいのか？などと思ってしまいます。ここ数年が異常気象なのか？また、この気象状況が当たり前になっていくのか？考えさせられます。

もし、これを読んで少しでも気になった方は、私にお問い合せ下さい。わかる範囲で答えることができるので、気軽にきいていただければと思います！
（市川）

見てね！
facebook　ホームページ

★職員の入退職★
入職
鮫島　龍雲　2020.5/8

表紙の作品について
表紙の刺繍を作った瀧沢元太さん。くじら工房のメンバーです♪当初、たまりば宙で開催予定だったギャラリー展。元太さんは、刺繍や織物を飾るはずでしたが、新型コロナ感染拡大防止の観点から、ウォーキングギャラリー（屋外）となったために展示することができませんでした。かいゆうだよりで、皆様の目に留まることができて本当によかったです！（くじら工房　家村）

編集後記◆市内各所にある公営掲示板。少し前はガラ空きでしたが、ポスターが貼られているのを目にするようになりました。が、大きなイベントは軒並み中止。毎年十一月開催のくにたち秋の市民まつりもしかり。かいゆうは、毎年出店して利用者の方の作品等を販売したり、綿あめ販売でお子さんにご好評頂いていたので残念至極です。◆新型コロナ感染拡大との報道が続いています。気を引き締めて感染防止対策をすることに異論はありません。が、PCR検査陽性者＝感染者ではないことをご存じですか？今、検査数は格段に増えており、検査数が増えれば自ずと陽性者数も増えます。一方、重症者や死亡者はピーク時の四月、五月とは比べ物にならない程減少しています。厚労省や東洋経済オンラインのHPをご覧あれ！（な）